

【テーマ9】日本教職大学院協会

「教職大学院教科教育コアカリキュラム及びその質保証に関する調査研究」
-教職課程コアカリキュラムと接続した教科領域導入モデルの作成に向けて-

調査の概要

教職大学院教科領域の授業やカリキュラムの前提とされる資質・能力形成と実践のありよう、並びに学校現場での実習や実際の実践事例を題材とした理論と実践の往還を実現する教科領域であるための質保証の仕組みについて包括的に把握する調査を行う。そこから優れた大学の具体的事例を探り、教職課程コアカリキュラムと接続した今後の教職大学院教科教育コアカリキュラム及びその質保証の仕組みについてのモデル化を試みる。

取組のポイント・成果

◆取組のポイント

①全教職大学院を対象としたアンケート調査の実施

- ・全教職大学院（54教職大学院）にアンケート調査を実施し、教職大学院における教育の状況と質保証に関する仕組みの包括的な現況把握（回答率100%）
- ・資質・能力の視点から教科領域導入モデルに示唆を与える取組とその質保証の仕組みに焦点化して、優れた取組を行う大学とその取組内容の特徴の特定

②優れた取組を行う大学へのヒアリング調査の実施

- ・社会系教科に関連するコースを中心に、5教職大学院にヒアリング調査実施

◆成果（明らかになったこと）

- ・教科領域科目は充実しつつあるが、カリキュラムやコースレベルになると、一部教職大学院に限られる
- ・ヒアリング調査対象の教職大学院では、定員規模によってコース設定が異なるが、小学校ー中学校ー高等学校と連続性を見据えた学びを指向している
- ・各教職大学院で抱える事情が様々であることが本調査により明らかとなり、具体的なコアカリキュラムに統合することの難しさもある
- ・研究者教員と実務家教員の明確な区分の有無に関わらず、授業設計のあり方の議論や授業担当教員間での入念な打ち合わせが、大学院教育のあり方を検討する機会となり、実質的にFD機能を果たしうる
- ・教員の属性に基づいて教科領域のコアカリキュラムに何らかの規定を設けるのではなく、各大学の目指す大学院教育や事情に合わせ柔軟に対応すべき

今後の課題

◆教科領域におけるコアカリキュラム導入にあたっての論点

- ・教職領域の専門性を教科領域の学修にいかに関り込んでいくか
- ・多くの教職大学院が課している成果報告書をどう位置付け、実習科目や教科内容領域との関係性をどう示すのか
- ・教科領域の科目について、授業設計（目標論・教材開発など）のどのような側面を取り上げるのか、どの程度科目を設定する必要があるか